

## 歯冠のポジションと機能 (総義歯の臨床基準と排列)

余田 圭司      Keiji Yoda

有限会社 一隅社 代表取締役

### 略歴

1968年 静岡県 御殿場市 生まれ  
1988年 東邦歯科技工専門学校 卒業  
1991年 早稲田歯科技工トレーニングセンター 卒業  
1992年 有限会社 一隅社 開設  
2006年 BEGO Cup テクニカルコンテスト 最優秀賞  
2009年 BEGO Cup テクニカルコンテスト 優秀賞

スタディーグループ    VOCE.C.C powerd by Claymore 所属

義歯製作にはさまざまな手法や材料が用いられる。

近年ではインプラントの応用などによって、咀嚼機能の回復はもとより、顔貌の回復など、患者の審美的要求にも十分に対応できる補綴物の製作が可能になった。しかし、超高齢社会を迎えるとともに経済の低迷が続く昨今のわが国では一部の患者の関心がインプラントなどの高額な治療費を伴う治療から有床義歯へと移っているように思われる。

患者は有床義歯に対して「美しく（審美）」「装着感に優れ（適合）」「よく噛める（機能）」ことを期待しているが、現実にそれらが達成されないとして不満を抱くケースも多々見受けられるように感じる。

総義歯での補綴は、基準となる患者ごとの適切な咬合平面を探し出すことが重要であり、この咬合平面をどのように導いていくのか、総義歯排列のガイドラインと審美・機能を改善する排列法を臨床例にて紹介する。